

滋賀県の地震

令和 7 年(2025 年)10 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	5
(2)概況	-----	5

3 地震一口メモ

緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用開始～	-----	6
---	-------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

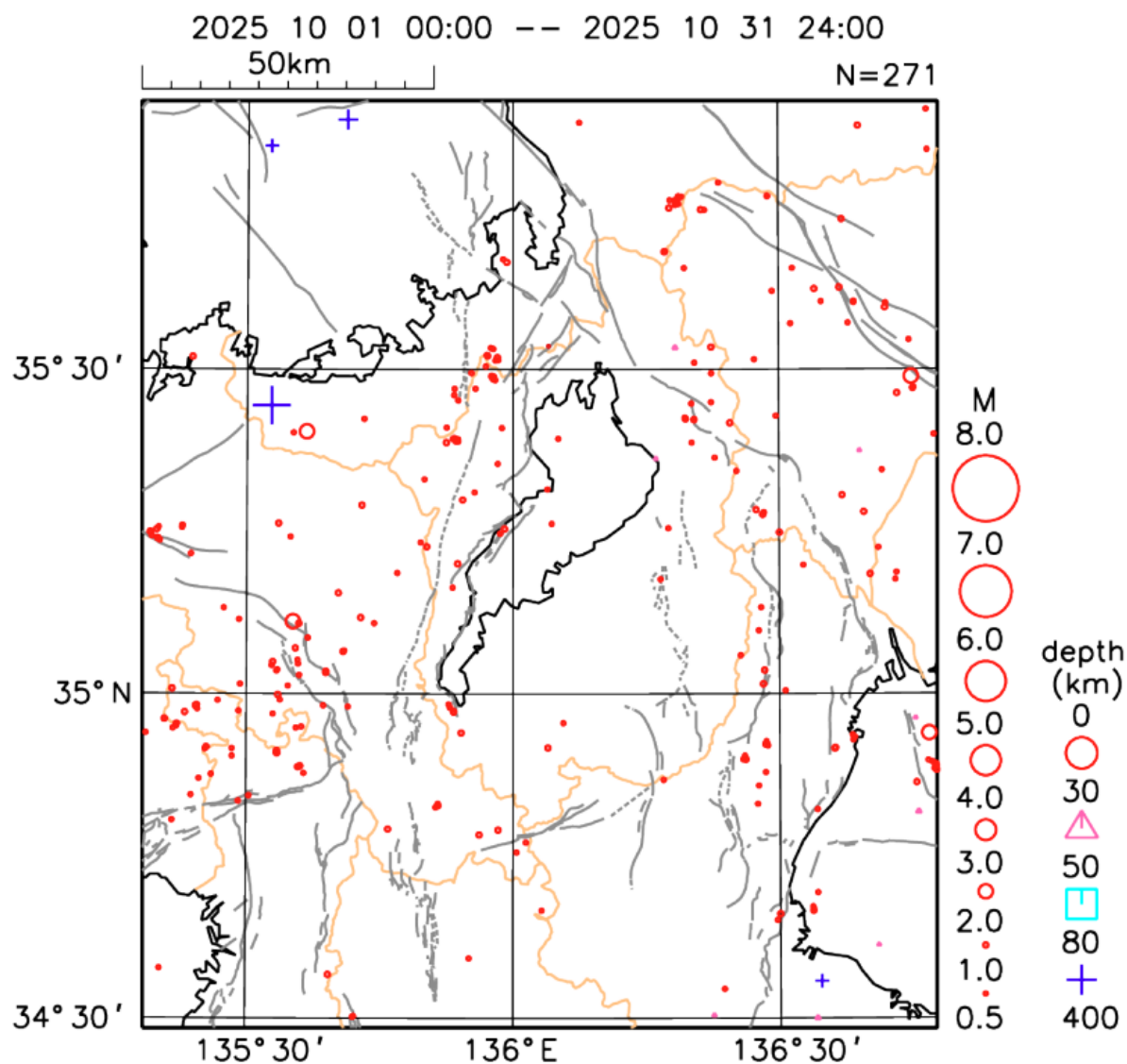
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和7年10月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

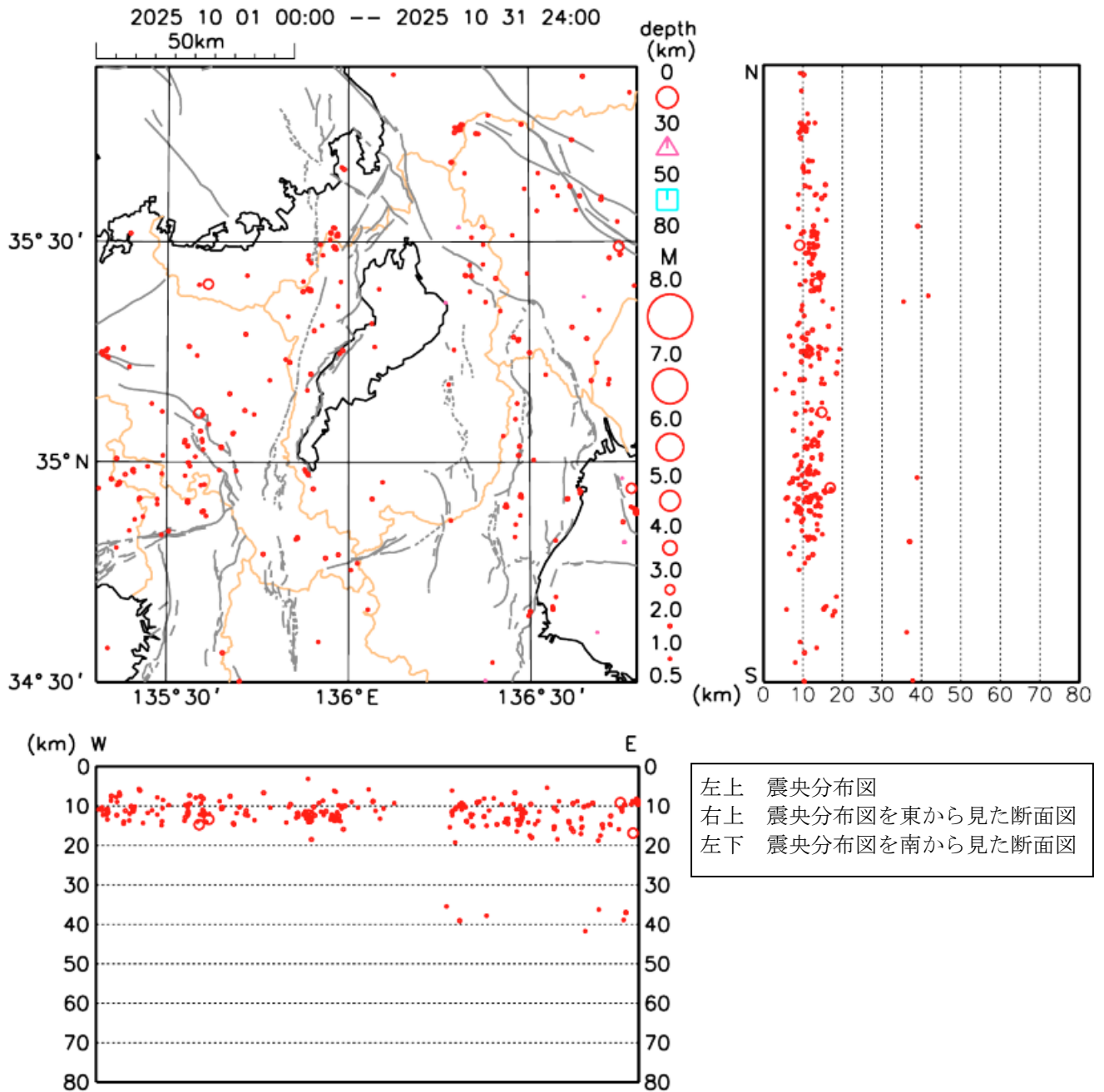
(2) 概況

10月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は8回（前月9回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした（前月1回）。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

9日06時51分 伊勢湾（図の範囲外）の地震（M3.4）：甲賀市、東近江市、竜王町で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2025年10月09日06時51分	伊勢湾	34° 53.0' N	136° 47.8' E	8km	M3.4
-------------------	-----	-------------	--------------	-----	------

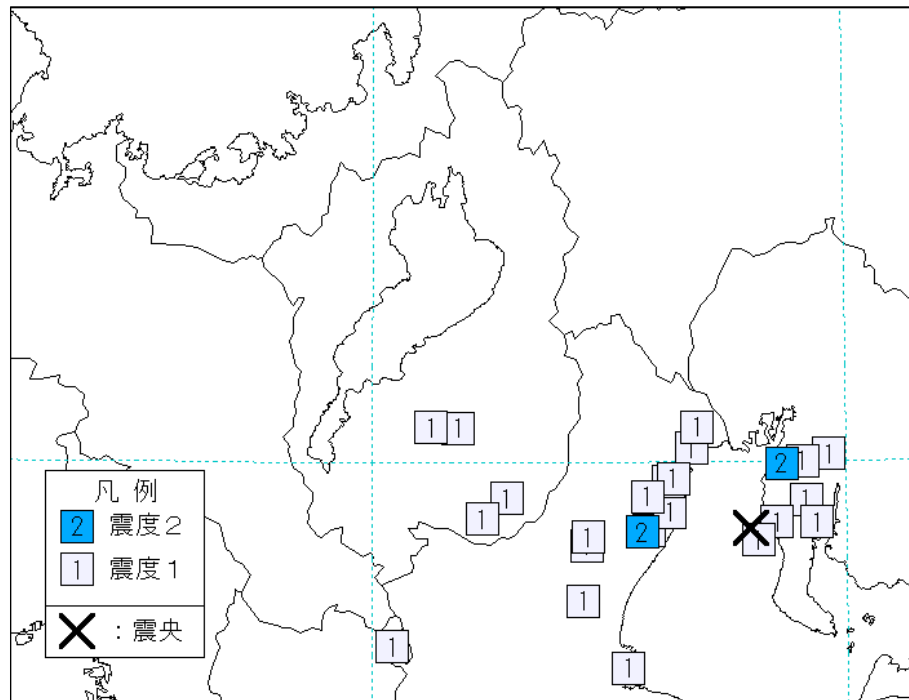
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1：竜王町小口＊, 甲賀市甲賀町大久保＊, 甲賀市土山町＊, 東近江市市子川原町＊

※ 名称の末尾に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布

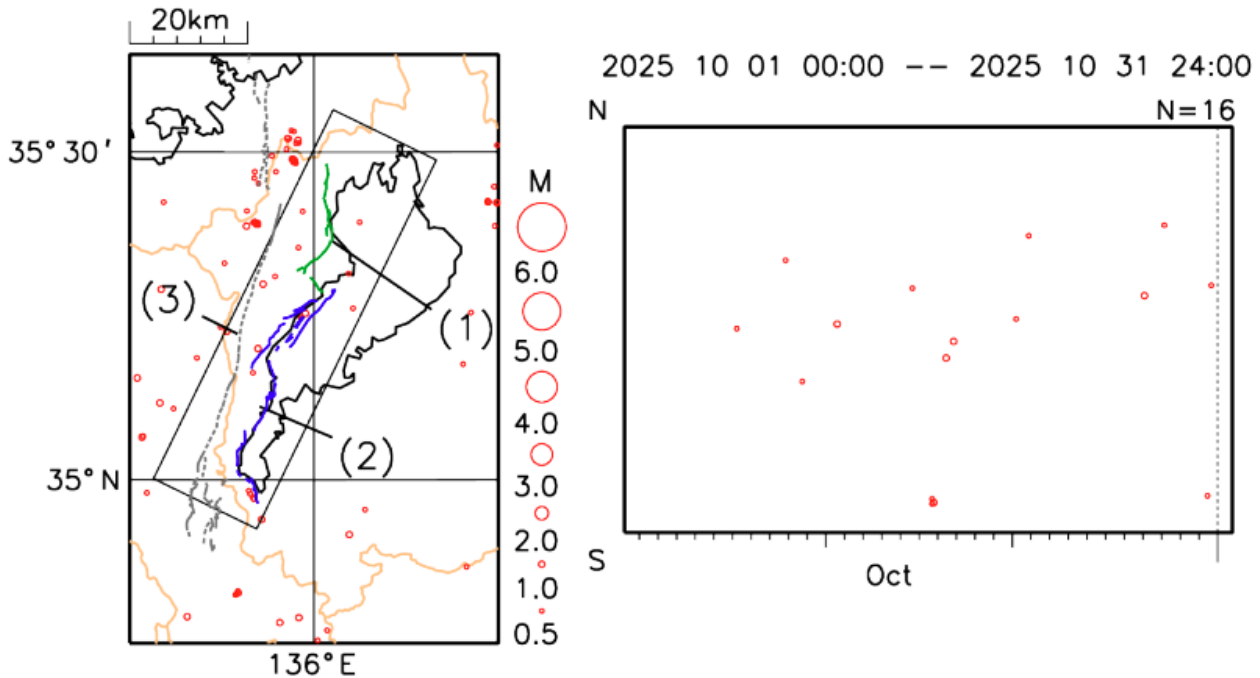
2025年10月9日06時51分 伊勢湾 (M3.4)



各観測点の震度

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 7 年 10 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2025 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

10 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

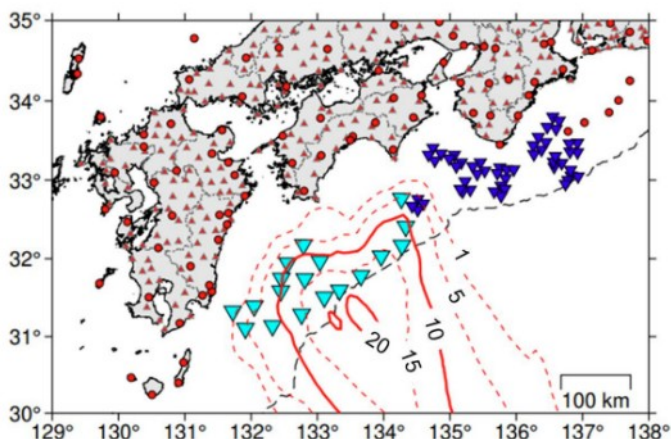
3 地震一口メモ

緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について ～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用開始～

国立研究開発法人防災科学技術研究所（以下、防災科研）は、南海トラフ地震想定震源域の観測空白域だった高知県沖から日向灘の海底に地震計と水圧計を備えた「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net※）」を整備しました。N-net は「沖合システム」（令和6年度整備完了）と「沿岸システム」（令和7年6月整備完了）で構成されており、この領域での地震と津波の監視や、調査研究などに活用されています。

気象庁では、海域で発生する地震に対する緊急地震速報の発表の迅速化を図るため、関係機関の協力も得て、沖合に設置された海底地震計の観測データの緊急地震速報への活用を進めていましたが、「N-net 沖合システム」の地震計についてデータの品質確認等を行い、緊急地震速報へ活用する準備が整ったため、令和7年10月15日（水）12時から緊急地震速報への活用を開始しました。これにより、四国沖から日向灘にかけて発生する地震について発表する緊急地震速報（警報）が、最大で20秒程度早まることが期待されます。なお、「N-net 沿岸システム」についても緊急地震速報に活用できるかどうか観測データの精査を行っています。

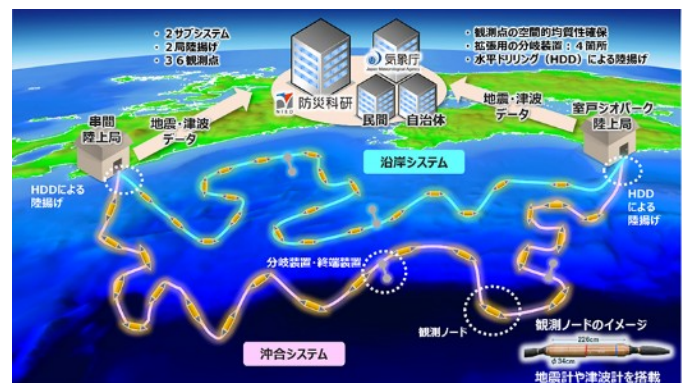
※N-net : Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis



●：緊急地震速報の震源推定に活用している気象庁の観測点

以下は、緊急地震速報の震源推定に活用している国立研究開発法人防災科学技術研究所が運用管理している地震・津波観測監視システム。

- ▼：地震・津波観測監視システム（DONET）の観測点
- ▲：高感度地震観測網（Hi-net）の観測点
- ▼：今回活用を開始する「N-net 沖合システム」の観測点



南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）のイメージ
防災科研 HP より

「N-net 沖合システム」の観測データの活用による緊急地震速報（警報）の迅速化

図中の値は、その地点で地震が発生した場合に、緊急地震速報（警報）の発表が、「N-net 沖合システム」の観測データの活用を開始する前と比較してどの程度早まるかを計算した理論上の最大値（秒）を示す。

気象庁HP 緊急地震速報に活用する海底地震観測点の追加について

～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沖合システム」の活用開始～

https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08b/20251008_N-net.html

防災科研HP 南海トラフ海底地震津波観測網：N-net

<https://www.seafloor.bosai.go.jp/N-net/>